

令和元年度 学校運営等に関する評価書

和歌山市立安原小学校

令和 2年 2月28日

学校名	和歌山市立安原小学校
作成日	令和 2年 2月28日

1 教育目標

自ら学び、心豊かで創造性に富む子どもを育成する。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力	豊かな心	健康でたくましい体	開かれた学校
指標	○ 授業がよく分かる児童が90% ○ 学力調査基礎問題正答率が市平均以上	○ 学校が楽しいと感じる児童が90% ○ いじめの解消率が100%	○ 朝ご飯を食べた児童が100% ○ 体力テストの走種目が県平均以上に	○ 学校の様子がよく分かる保護者が90% ○ 中学校区での連携実践できた教員が90%
重点目標に対する意見	○重点目標への取組は、それぞれの先生方が個性を出して実践している。昨年度の実践を生かし、実態に基づいた取り組みである。 ○全国学力学習状況調査について、教職員で課題を分析し取り組む方向が具体的に示されていることが、素晴らしい。その中でも、「書く力」「発表する力」を学校の大きな課題と捉え、課題解決のための取組が示されている。	○教室や廊下にて、目標や子どもの活動・作品等が掲示され、学校環境・学級環境作りに努力していることが感じられる。 ○重点目標に対する具体的な数値目標を高い割合で示していることが素晴らしい。中でも、「いじめの解消率100%」を掲げ、児童の心の成長に対する実践は、素晴らしい。 ○アンケートの結果からほとんどの子どもが学校が楽しいと答えていることから、取組の成果が現れている。	○重点目標に対する具体的な数値目標を高い割合で示していることが素晴らしい。中でも、「朝ご飯を食べた児童100%」を掲げ、児童の身体の成長に対する実践は、素晴らしい。 ○重点目標への取組は、それぞれの先生方が個性を出して実践している。昨年度の実践を生かし、実態に基づいた取り組みである。 ○児童の作品がよく掲示されている。	○地域の環境を生かし、計画的に体験的な学習を行うことで、地域を知り、また、生きる力を身に付ける大切な機会となっている。 ○オープンキャンパスやウェルカムキャンパスなどの学校開放での連携推進が必要である。
取組の状況に対する意見	○授業中の児童の活動の場を工夫したことで、研究主題「自尊感情の育成をめざして」の成果が、活動する児童の姿に現れてきていると感じている。 ○環境作りで、階段に四字熟語などが書かれていてユニークな取り組みだと思ふ。 ○前年度の取組結果を分析して、新たな取組につなげていこうとする教員の努力が感じられる。 ○毎日の勉強が分かりにくい子どもには、今以上に寄り添い、具体的に取り組み、関わってもらいたい。 ○学習習慣の定着や読書の啓発は、家庭と協力しながら、学校と家庭のダブルパワーで習慣づけに取り組むのが良いと思う。	○学習に対し、活発に発表し、意欲を持って真面目に取り組む良さを感じられた。 ○ほとんどの子どもたちは一生懸命に授業を受けているが、その中でも、クラス全体で目がキラキラしている授業や、先生に注目している授業が見られた。 ○子どもたちの表情が生き生きと豊かに、楽しく授業を受けているなど、感じられた。 ○児童は、先生の問いに対して発表もよくできていた。どの児童も活発に発表したい意欲は高いのだが、友達の意見が聞き取れない児童もいた。聞く指導も徹底してもらいたい。 ○引き続き、自尊感情を育成する取り組みを実践してほしい。 ○いじめ対策、ペア学年の学習、支援学校との交流等で、十分に取組ができている。 ○学校が楽しいと感じた児童が大半であるのは、いじめに対する取組の成果だと考えられる。	○ゲームの時間について、家庭と連携した取組によって生活習慣の定着を図ろうとしている取組が素晴らしい。 ○外遊びの実践、体育の授業のくふうが体力の向上につながっている。さらに、子どもたちの健康のために「徒歩での登下校の推奨」を希望する。 ○取組が具体的に、充実している。早寝・早起き・朝ご飯は、大切です。	○運動会等の学校行事への取組を見て、教職員の連携がうまく機能していると感じる。 ○学校の取組を回覧板等を通して、家庭や地域に発信しているのが、いつも楽しみにしている。今後とも、コミュニティスクールとして、家庭や地域との連携を密にしていることで、さらに地域の人・保護者の協力が得られてくると思う。 ○コミュニティスクールの運用で、本の読み聞かせ等、地域人材の活用がされていて、よい。日曜参観で地域の防災活動を行うなど、家庭や地域との連携を密にしていることで、さらに地域の人・保護者の協力が得られるようになるだろう。 ○子どもの様子、家庭教育の大切さをどんどん発信していってほしい。
検証結果に対する意見	○国語科の授業で、児童同士の話し合いを大切にしている授業があった。児童も自分の考えをしっかりと持って発表できていた。学校の課題解決に向けた授業での取組だと感じられた。一方で、どの学級でも児童が考えを発表する場を作ってもらいたい。 ○4年生の1年間の振り返りで国語科において「はじめに」「次に」「一つ目」「二つ目」といったキーワードが使えるようになったという報告があったが、このようなキーワードを意識させて考えを書く取組を継続していくことで、論理的に書く力が育つので、発達段階に応じて1年生からの積み上げを実践してもらいたい。 ○検証結果から、課題解決のため、学年に応じ、また、学校全体で課題に取り組むことは、大切である。	○級友とのかかわりは、言葉遣い等、優しくて雰囲気良かった。「学校が楽しい」と感じる子どもが多いことがよく分かる。 ○大休憩・昼休憩の遊びの推奨が子ども同士の人間関係の構築に役立ち学級づくりにも活かしている。 ○いじめの早期発見・早期対応の取組など子どもの心を育てる取り組みが、仲の良い安原の子どもたちの姿に現れている。 ○いじめアンケートの実施は、大切です。	○授業中の児童の楽しく学習している雰囲気が良い。先生方の笑顔に子どもたちは安心して学習している。 ○なにかよし学級の授業は、子どもたち一人一人の力に合った課題を与え、きちんと見ていた。大変なことだと思うが、一人一人に寄り添った指導がなされている。 ○よく実践できていると思います。	○情報PRはされているが、参加を促すために、支所やJA、郵便局に参加募集のポスター掲示をお願いするのよいかではないか。 ○学校は保護者が講演(家庭教育の向上)を受ける環境を設定していた。多くの保護者に聞いてほしかった。まず、学校と保護者が互いの期待に応えることで信頼が増す。保護者と学校が連携して地域に働きかけてこそ、一体化し、学校運営の改善及び児童の健全育成に取り組むことができるのではないかと。 ○各便りやホームページでの情報発信や授業公開、各行事の積極的な公開により、学校の取組や児童の様子が、地域の方にもよく理解してもらっている。 ○アンケートの実施を通じて、児童・保護者の意見を聞くことで見えてくるもの、気がかされることもある。 ○今後ますます中学校への接続を深めることが大切だと思う。
改善方法に対する意見	○授業に工夫があり、良いと思う。ディスプレイを効果的に使おうとする姿勢が見られ、ICT機器と従来の手作り教材のよさを使い分けて、理解の向上を図ってもらいたい。 ○グループ学習で力を合わせて元気に活動できていた。また、一生懸命調べたことを発表していた。児童主体で授業を展開することは大切だが、流れないようメリハリをつけるための的確な指導・助言が必要。グループ学習では、発表の仕方、聞き方のトレーニングが大切である。 ○家庭学習の保護者への啓発や課題の与え方については、来年度も必要であり、課題については、ドリル的なものだけでなく、その日の授業の学習内容に関する課題も大切である。 ○教材研究、研修、資質向上がますます重要。そのためにも、教員の働き方改革、教育委員会がしなければならないこと、学校ができることを計画や対策を立てて実施することが必要。	○道徳の授業研修で、他校との合同研修は、双方の取組の交流ができ、研修が深まるのでとても良い研修方法である。 ○規範意識の向上は、素晴らしい。検証結果を基に引き続き取り組んでもらいたい。	○スポーツテストの結果から課題となっている持久力・瞬発力の向上に向けての体育の時間での取組や外遊びの推奨を継続して取り組んでもらいたい。	○このような学校にしたい、このようなことをしたい、という具体的な展望を示し、地域に発信することで、地域の方を今以上に取り入れることが可能になると思う。 ○地域の10年後、20年後を見据えた交流の機会が必要だと思う。 ○地域の方の手を借りて行っている授業について、子どもたちが家で話をする、家族での話題となって、保護者にとってよい情報となると思う。 ○児童の学習習慣・生活習慣の定着のため、家庭と連携した取組が大切である。 ○学習指導要領が変わることについて、学校と家庭が連携して子どもたちの健全育成に協力していかなければならない。 ○地域との連携は、学校と家庭がよく話し合い、れんけいしたいことを具体的にお願いするのよいか。

3 その他のご意見

○授業中の子どもたちと先生の笑顔が素晴らしい。担任と児童の人間関係が良く、学級として共に歩んでいると感じた。先生方の笑顔に子どもたちは安心して学習していると感じる。
○子どもたちは、授業でよく頑張った自分の考えや意見を発表していた。しかし、聞き手にそれが伝わっているのが大切である。発言、発表の仕方とともに、聞き方の指導の必要性を感じた。
○新指導要領に変わること、すべてにおいてコーチングで取り組んでもらいたい。